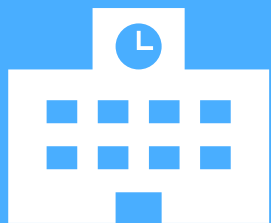


令和7年度「家庭教育支援推進のための調査研究事業」
保護者に対する学習機会を提供する団体に関する調査研究
①「令和の時代」におけるPTA 運営改善支援にかかる委託事業

「令和の時代」における 運営優良PTA事例集



令和8年3月



日本総研
The Japan Research Institute, Limited

1. はじめに	3
2. 「令和の時代」における運営優良事例一覧	5
3. 「令和の時代」における運営優良事例集	8
4. 「令和の時代」における運営優良事例のポイント	37

本報告書は、文部科学省の委託事業として、株式会社日本総合研究所が実施した、令和7年度「家庭教育支援推進のための調査研究（保護者に対する学習機会を提供する団体に関する調査研究①「令和の時代」におけるPTA 運営改善支援にかかる委託事業）」の成果をとりまとめたものです。

1. はじめに

本事例集の目的と構成

本事例集の目的

- 少子化や共働き世帯の増加など、社会構成や家族の形の変化に伴い、地域における社会教育関係団体においても、活動や団体の在り方に変化が求められている。特に、保護者と学校教職員による社会教育団体である「PTA」については、入退会の自由選択をはじめとする活動・運営方針の見直しに取り組む団体が増加しており、現代の保護者ニーズに即した改革が進められているPTAも見受けられる。
- こうした中、PTA 活動においては、活動の負担感や不透明な役割分担等を背景として、地域や学校ごとに多様な課題が生じている状況が伺える。
- そこで、地域の子供たちの健やかな成長を支えるPTA 活動が、より楽しく充実したものとなるよう、「令和の時代」にふさわしい運営事例の普及に向けた機運を高めつつ、普及の機会の創出を見据え、運営優良事例をとりまとめた。

本事例集の構成

1 本事例集の目的や構成について

P 4 参照（本ページ）

2 「令和の時代」における運営優良事例一覧

P 5 ～ P 7 参照

3 「令和の時代」における運営優良事例集

P 8 ～ P36参照

4 運営優良事例のポイントについて

P37～P38参照

2. 「令和の時代」における運営優良事例一覧

「令和の時代」における運営優良事例一覧 | 各事例の概要

- 「令和の時代」における運営優良事例の調査対象先と事例の特徴の一覧は以下の通り。

事例対象	所在地	学校種	事例の特徴
福岡教育大学附属幼稚園PTA	福岡県	幼稚園	- PTA活動の一環として、園児とともに楽しむ「城山キッズ」という活動を長年行っている。自由参加型の運営のもと、保護者が納得感を持って無理なく活動に参加できるよう工夫している。 - こうした日頃の活動で培われたPTAと園の信頼関係をもとに、対外的な情報発信についてもPTAと園が連携して実施している。
北海道教育大学附属旭川小学校PTA	北海道	小学校	- 業務効率化のためのデジタルツールの導入や、クラウド会計ソフトの利用、会員とのコミュニケーションでの活用など、デジタルツールの活用に注力している。 - 近年は、保護者と地域が一体となって運営する「ワイワイキャリアフェス」という職業体験イベントを年1回開催しており、PTAの活動と学校のキャリア教育を連動させる動きが出てきている。
杉並区立永福小学校PCA	東京都	小学校	- PTA活動の負担感等を背景として、新しい組織形態への移行を決め、現在は運営メンバーと、サポートメンバーと呼ばれる会員が協力して無理のない範囲で活動を行う体制を実現。なお、新組織移行により活動は縮小しているものの、杉並区立の学校に設置されている学校支援本部にて地域住民が教育活動を支援しており、そこでも子どもたちのための様々な活動を実施。 プリント配信アプリを導入し、運営業務の大幅な効率化も実現。
川崎市立西野川小学校PTA	神奈川県	小学校	- 川崎市PTA連絡協議会が作成したPTA活動のガイドラインを活用しながら、従来の保護者の負担が大きい運営の在り方を改め、運営の適正化や会員が活動しやすい体制へと変革を進めていった。 - 広報活動にも注力し、PTAのホームページの作成やSNSを活用した情報発信も充実。
岐阜市立岐阜小学校 学校運営協議会・PTA	岐阜県	小学校	- 岐阜小学校では、PTA単独での活動に加えて、コミュニティ・スクールとして地域・保護者・学校が連携し、子どもたちのための活動を行っている。 - コミュニティ・スクールとして、「学び部」「安全・安心部」「地域行事部」の3つの部会があり、地域からの参加者と保護者（PTA）が協力して、多彩な活動を行っている。
名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校PTA	愛知県	中学校	- PTAとは保護者と教員が任意で参加する社会教育団体である、という原点に立ち返り、時間をかけて組織の在り方、活動の在り方を見直してきた。 学校（教員、キャリアナビゲーター）と良好な協力関係を築きつつ、プロジェクト制を導入し、活動を希望する人がやりたいことを実現できるPTAとして、様々な活動を行っている。
栃木県立矢板東高等学校PTA	栃木県	高等学校	- コロナ禍を契機として、会員がPTA活動に参加しやすくなるよう、ボランティア制度を導入。 - 保護者自身が学ぶための講座など主体的に様々なイベントが企画され、保護者同士のコミュニケーションも活性化するなど、活動が充実している。

「令和の時代」における運営優良事例一覧 | 各事例の特徴・調査項目のまとめ

- 各事例のポイント・調査項目のまとめは以下の通りである。
- 各運営優良事例は、それぞれの特徴ある取り組みの内容に応じて「運営の適正化」、「デジタルツールの活用」、「組織の見直し・活性化」、「学校・地域・関係者との連携」、「広報活動」の5つの調査項目で整理した。
- なお、これらの整理について、例えば「組織の見直し・活性化」に関する内容の一部に「運営の適正化」に関する内容が含まれるなど、一部重複が見られる点は留意されたい。

対象事例	【ポイント1】 運営方法の改善		【ポイント2】 主体的な活動参加の促進		【ポイント3】 PTA活動の周知
	(1-1) 運営の適正化	(1-2) デジタル ツールの活用	(2-1) 組織の見直し・ 活性化	(2-2) 学校・地域・ 関係者との連携	(3) 広報活動
福岡教育大学附属幼稚園PTA			●		●
北海道教育大学附属旭川小学校PTA		●		●	
杉並区立永福小学校PCA		●	●		
川崎市立西野川小学校PTA	●		●		●
岐阜市立岐阜小学校 学校運営協議会・PTA				●	
名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校PTA			●	●	
栃木県立矢板東高等学校PTA			●		

3. 「令和の時代」における運営優良事例集

「令和の時代」における運営優良事例 | 福岡教育大学附属幼稚園PTA

運営方法の改善		主体的な活動参加の促進		PTA活動の周知
運営の適正化	デジタルツールの活用	組織の見直し・活性化	学校・地域・関係者との連携	広報活動
		●		●

事例のポイント

- 共働き世帯が増えていることなどもふまえ、「**できる人が、できる時に、できることを**」を合言葉に、園とも密に連携しながらPTA活動を行っている。
- PTA活動の一環として、園児とともに楽しむ「城山キッズ」という活動を長年行っている。自由参加型の運営のもと、保護者が得意分野を生かした関わり方が可能となっており、**保護者が納得感を持って無理なく活動に参加**できるよう工夫している。
- こうした日頃の活動で培われたPTAと園の信頼関係をもとに、対外的な情報発信についてもPTAと園が連携して実施している。

学校情報

学校名	福岡教育大学附属幼稚園
所在地	福岡県宗像市
園児数	46名(令和7年9月1日時点)
学校の特徴	幼児の全面的発達を教育の目標におき、人間形成の基礎を培う。 大学と協力し、幼児教育に関する研究と実践に努める。 大学と連携して、将来の幼稚園教師を目指す学生の教育実習を行う。 地域の幼児教育研究機関や家庭と連携し、幼児教育の振興に努める。 「3つの種」(あいさつの種・なかよしの種・がんばりの種)の育成に力を入れている。

出所：福岡教育大学附属幼稚園ホームページ（<https://fukuokakg.fukuoka-edu.ac.jp/>）、園提供資料等を基に作成

PTA活動への保護者の主体的な参加を促す運営上の工夫

(参考)「城山キッズ」の活動概要

じょうやま 城山キッズ 2024 【表面】

城山キッズはPTA活動の一環で、毎年、保護者（有志）が在園生に向けてイベントを企画し、保育時間の中で園児と共に楽しんでいます。今年度は年間5回ほど、各回30分程度を予定しています。

今年のテーマは、「異文化理解」です。在園児の保護者の方に講師になっていただき、ご自身の故郷を紹介していただきます。

園児たちは、一人ずつオリジナルの“パスポート”を持ち、擬似の“飛行機”に乗って、ワクワクドキドキの世界旅行に出かけます！

初回の旅先は、【フィリピン共和国】の予定（6月）です。

さくら組の さんが、フィリピンのお話をしてくださいます。

また、今回のイベントや飛行機の乗り方について、5月28日（火）の保育時間に園児に向けてお話する予定です。どうぞお楽しみに！



しゅっぱつ！

ようこそ！ Mabuhay!



イベントにご協力をしてくださる
保護者さんを募集しています



城山キッズの活動にご興味がおありの方、また、サポーターとして参加希望の方、その他お問い合わせは、ぽぷら組の か、さくら組の にお声がけください。

※城山キッズ2024の年度計画は裏面をご覧ください。



対外的な情報発信の取り組み

実施に至った背景・経緯	- 少子化の中、これからも園が存続・発展していくよう、保護者の力を借りて園を盛り上げていくとともに、そうした園の魅力を対外的に発信していきたいとの思いを園が持っていた。 - そうした思いをふまえ、PTAにおいてもできる活動を考えながら、OB/OGも含め主体的に情報発信にも関わっている。
取組のポイント	【入園児の保護者向け説明会にてPTAについても紹介】 - 次年度以降の入園希望者を対象とした説明会において、園からの説明に加えて、PTAからもPTAの活動について説明を行っている。年間スケジュールや活動内容について伝え、PTAについてもイメージを持ってもらえるよう工夫している。 【PTAと園が連携した地域に向けた情報発信】 - マルシェをやりたいという保護者の発案により、福岡教育大学の大学祭共同企画として園内に店出し、その場で園のPR動画も流した。 - それを契機として、本園の保護者OB/OGも加入する後援会が中心となって大学祭だけでなく地域のお祭りにもマルシェ等を出店し、合わせて園のPR活動も行っている。 【表彰事業への応募等、関係機関への活動の発信】 - PTAと連携した教育活動など充実した取り組みについて、実施して終わりとするのではなく、園としてその成果をとりまとめ、表彰事業等の応募にチャレンジすることも大切にしている。 - 受賞経験は関わった保護者にとっても励みになるとともに、大学HPや園HPなどウェブサイト等で公表することにより、関係機関や地域に対してPTA活動を含め園の取り組みを知ってもらう良い機会となっている。 - 全国国立大学附属学校PTA連合会によるPTA団体表彰の受賞により、本園PTAが全国大会で実践発表を行い、積極的に情報を発信した。それに伴い、「未来への架け橋プロジェクト」(全附連)として、本園の特色あるPTA活動が全附連HPに動画で公開される予定となっている。
主な成果や今後の課題	- 保護者が主体的に活動し、豊かな活動が生まれる素地ができており、その延長として対外的な情報発信も充実している。 - PTAと園が連携し、PTAとして主体的に園や園児の役に立ちたいと考える文化が根付いている。 - 積極的な情報発信が功を奏して、全国からの視察を令和7年度後期に数多く受けている。



出所：福岡教育大学附属幼稚園提供資料

「令和の時代」における運営優良事例 | 北海道教育大学附属旭川小学校PTA

運営方法の改善		主体的な活動参加の促進		PTA活動の周知
運営の適正化	デジタルツールの活用	組織の見直し・活性化	学校・地域・関係者との連携	広報活動
	●		●	

事例のポイント

- ・ コロナ禍で従来通りの活動実施が難しくなったことを契機に、活動体制をスリム化した。それでも充実した活動が可能になるよう、運営方法についても様々な工夫を重ね、**デジタルツールの活用にも注力**している。
- ・ 具体的には、業務効率化のためのデジタルツールの導入や、クラウド会計ソフトの利用、会員とのコミュニケーションでの活用が挙げられる。
- ・ 本PTAでは学校の教育目標をもとに、PTAが活動テーマを設定している。近年は、保護者と地域が一体となって運営する「ワイワイキャリアフェス」という職業体験イベントを年 1 回開催しており、**PTAの活動と学校のキャリア教育を連動させる動き**が出てきている。

学校情報

学校名	北海道教育大学附属旭川小学校
所在地	北海道旭川市
児童数	392名（令和 7 年 5 月 1 日現在）
学校の特徴	学校の教育目標は「主体的人間の形成 ーよく見、よく聞き、よく思い、心も体もたくましい人間を目指します」となっている。

出所：北海道教育大学附属旭川小学校ウェブサイト（https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_asa_syo/outline/）を基に作成

デジタルツールを活用した業務効率化と円滑なコミュニケーションの実現

実施に至った背景・経緯	・ コロナ禍で従来通りの活動実施が難しくなったことを契機に、PTAの活動体制を見直した。それまでの委員会制度を廃止し、会長、副会長、会計、監査の4役が中心となり活動を企画し、必要に応じて会員からサポーター（単発ボランティア）を募る体制となった。 ・ 体制をスリム化しても充実した活動を行うため、運営方法についても様々な工夫を重ねている。その一環として、業務効率化やより円滑なコミュニケーションや次年度への引き継ぎを実現するため、デジタルツールの活用に注力している。
取組のポイント	【業務効率化のためのデジタルツールの活用】 ・ PTA業務において、グループウェアやコミュニケーションアプリ内のグループチャット機能を活用。全体会議の回数は絞り、日常的な連絡や進捗共有はこれらのチャット機能等を利用している。 ・ 資料や広報物作成の際には、オンラインデザインツールも活用し、効率的に見やすい資料を作成できるよう工夫している。 ・ クラウド上に資料を保管し、次年度以降も既存資料を活用できるようにしている。 【デジタルツール活用による、会員とのコミュニケーションの充実】 ・ 会員への情報発信はアプリを通じて行っており、サポーターの募集にも活用している。 ・ イベント等を開催した後は、会員向けにデジタル紙面にて参加への感謝と成果を報告し、次回への参加意欲を高められるよう努めている。 【クラウド会計ソフトの導入】 ・ 以前は紙のやり取りが中心で、会計業務全体の流れを把握することが難しかった。 ・ そこで、無料のクラウド会計ソフトを導入し、作業の属人化を防ぐとともに、次年度への引き継ぎが行いやすい運用へと改めた。 ・ 会計ソフトでは、会費の使途や金額が視覚的に分かりやすく表示されるため、詳細な引き継ぎをせずとも、次年度の担当者が業務を理解することが可能となっている。  右側の画像は、PTAの活動ポスターとクラウド会計ソフトのスクリーンショットを示しています。ポスターには「7/12 2025 チームPTA 躍進」の文字があり、夏祭りの様子が写っています。スクリーンショットには、収入1,000円、支出353円、利益647円の数字と、円グラフによる支出の内訳が示されています。
主な成果や今後の課題	・ デジタルツールの活用により、役員・委員の業務効率化が図られた。クラウド上での資料保管等、次年度以降の活動の負担軽減に寄与できていると考えている。 ・ 会計に関しては、毎年決まった時期に同じような活動や支出があるため、会計ソフトの導入により、次年度担当者が前年度のデータを参照することで、支出の金額や時期などが適正であるかを判断しやすくなった。

図表出所：北海道教育大学附属旭川小学校PTA提供資料

学校・地域・関係者と連携した活動の実施

実施に至った 背景・経緯	以前は夏休み明けに子どもが楽しく参加できるイベントとして縁日を行っていたが、コロナ禍であっても子どもたちに様々な職業に触れる機会を提供したいという思いから、令和4年度より職業体験イベント「ワイワイキャリアフェス」に変更することとなった。
取組の ポイント	【学校との連携】 - 本PTAでは、学校の教育目標をふまえ毎年の活動テーマを設定している。このワイワイキャリアフェスは、「主体的人間の形成」という学校教育目標にも重なるものである。 - 学校では、こうしたPTAの取り組みと学校でのキャリア教育の連動を図る動きが生まれている（キャリアフェス実施時期に合わせて、キャリアに関わる学級活動を入れるなど）。 【地域との連携】 - ワイワイキャリアフェスでは、趣旨に賛同する地元の企業や公的機関がブースを出展し、ブースではそれぞれの職業を体験することができる。 - PTAが地域の企業や公的機関へ出向き、趣旨を説明し協力を依頼している。こうした地域の協力により、学校・PTAだけでは実施できない充実した職業体験の機会となっている。 【イベントの活動成果の発信】 - 他のイベント同様、本イベント実施後に、保護者への感謝の気持ちを伝えるフィードバック資料を作成し、配信している。また、アンケートも実施し、改善要望は反映できるように努力している。 【活動の継続性の確保】 - 次世代につないでいけるよう、令和7年度はワイワイキャリアフェスの業務内容を詳細にまとめた引き継ぎ書を作成している。引き継ぎ書を作成したことにより、いつ、誰に、どのようなことを依頼するのが整理できた。 北海道教育大学附属旭川小学校PTA 2025年9月5日発行 「なりたい」がたくさん詰まった一日に！  キャリアフェス夢新聞 雨天決行、初の屋内開催！ 8月30日（土）、旭川小学校で「ワイワイキャリアフェス」が開催されました。今年で4回目の開催、これまで雨天の場合は中止してきましたが、事前協議と準備を重ね、今年度は雨天開催の予定となりました。当日は屋内開催となり、雨天でも安心して参加することができました。当日は、地域の企業や公的機関がブースを出展し、子どもたちが様々な職業を体験することができました。また、保護者への感謝の気持ちを伝えるフィードバック資料を作成し、配信しています。また、アンケートも実施し、改善要望は反映できるように努力しています。 子供たちの声をお届けします。 「特別な体験ができて楽しかった！」「今日の活動で、将来の夢がもっと明確になった！」「ワイワイキャリアフェス、また来年も開催してほしい！」など、子どもたちの声がたくさん聞かれました。また、保護者からも「子どもが職業に興味を持ち、将来の夢が明確になった」という声も聞かれました。今回のワイワイキャリアフェスは、子どもたちが様々な職業を体験することができ、将来の夢が明確になったことが大きな成果です。また、保護者への感謝の気持ちを伝えるフィードバック資料を作成し、配信しています。また、アンケートも実施し、改善要望は反映できるように努力しています。 将来の子供たちへの希望に・・・ 本イベントは、地域の企業や公的機関の協力を得て、子供たちが「働くこと」について理解を深め、将来の夢を明確にするための活動です。今後も、地域の企業や公的機関と連携し、子供たちが様々な職業を体験することができ、将来の夢が明確になるような活動を実施していきます。 北海道教育大学附属旭川小学校 PTA会長
主な成果や 今後の課題	「ワイワイキャリアフェス」が非常に充実した取り組みとなっていることから、学校としても同じ時期にキャリア教育を実施しようという動きが出てきており、PTAの活動が学校に還元できていると実感している。

図表出所：北海道教育大学附属旭川小学校PTA提供資料

「令和の時代」における運営優良事例 | 杉並区立永福小学校PCA

運営方法の改善		主体的な活動参加の促進		PTA活動の周知
運営の適正化	デジタルツールの活用	組織の見直し・活性化	学校・地域・関係者との連携	広報活動
	●	●		

事例のポイント

- 以前のPTAは活動の負担が大きく、役員・委員をやりたくない／やれないと感じる保護者が多くいたことをふまえ、令和6年度に総会での議決を経て、新しい組織「PCA（Parent Communication & Community Association）」へ移行し、活動体制・内容を大幅に見直した。
- 新しい組織形態では、**運営メンバーと、サポートメンバーと呼ばれる会員が協力して、無理のない範囲で活動を行う体制**となっている。**PCAへの加入は任意であり、運営メンバーへの就任も立候補制**としている。
- 活動としては、学校行事や地区／地域行事の運営サポートや、ラジオ体操等PCA主催イベントの運営等を行っている。
- なお、新組織移行により活動は縮小しているものの、**杉並区立の学校に設置されている学校支援本部にて地域住民が教育活動を支援**しており、そこでも子どもたちのための様々な活動が行われている。
- また、新組織移行にあたり**プリント配信アプリを導入し、運営業務の大幅な効率化も実現**。

学校情報

学校名	杉並区立永福小学校
所在地	東京都杉並区
児童数	610名（令和7年4月1日現在）
学校の特徴	教育目標『やさしく つよく』 目指す子供像： 「やさしく」…正しいことを判断する子 地域や社会につくす子 自分に自信をもてる子 「つよく」…努力する子 がまんする子 健康な体をつくる子。

出所：永福小学校ウェブサイト「学校紹介」（https://www.suginami-school.ed.jp/eifukushoubg/?page_id=19）を基に作成

「令和の時代」における運営優良事例 | 杉並区立永福小学校PCA

**新しい組織形態への移行により、保護者が無理なく楽しく活動ができる体制を実現。
子どもたちのための活動は、区の支援により設置された「学校支援本部」でも実施。**

実施に至った 背景・経緯	- 以前は、役員、学級委員に加え専門委員会の委員等を定員に応じて選出しPTA活動を行っていたが、業務量が多く、役員・委員をやりたくない／やれないと感じる保護者が多くいる状況であった。 - そこで、令和6年度にPTA会員向けにアンケートを実施し、上記のような状況を可視化したうえで、保護者が無理なく、楽しく活動に参加できるよう、新しい組織形態へ移行する手続きを進めることとした。
取組の ポイント	【新しい組織の立ち上げ】 - アンケート結果をふまえ、令和6年度のPTA総会にて新しい組織形態への移行について会員の承認を得たうえで、新組織としてPCA（Parent Communication & Community Association）を立ち上げた。保護者同士がコミュニケーションをとり、集う場にしてほしいという思いから、PCAという名称にしている。 【運営体制】 - 令和6年度の運営は、当年度のPTA役員、その他立候補者を中心に行った。 - 運営体制としては、運営メンバーとして「リーダー（2名）」「サブリーダー（若干名）」「会計／事務（2名～・兼務可）」という役職をおいている。役職者のみでなく皆で協力して活動を行うという趣旨のもと、会員は「PCAサポートメンバー」とし、都度募集されるイベント運営のボランティア等に可能な範囲で協力することとなっている。 - PCAは子どもや学校をサポートする立場であるとの考えのもと、会員は現役保護者のみとしている。 - PCAへの加入は任意であり、各役職への就任は立候補制で、サポートメンバーとしての活動への協力も任意となっている。 - 効率的な組織運営のため、デジタルツールの活用も積極的に進めている（P19参照）。 - 活動見直しに伴い経費が削減されたことをふまえ、会費の見直しも行い、以前よりも安くした会費で運営を行っている。 【活動内容】 - PCAの主な活動は、学校行事や地区／地域行事の運営サポート、ラジオ体操等PCA主催イベントの運営等であり、参加者が自発的にやりたいことを提案することも可能となっている。 - PTA時代と比べ、活動は必要性が高いものに絞り、会員が無理なく対応可能な範囲で実施している。また、実施に必要な人数が集まらない場合には中止も検討する等、柔軟な運用としている。 - 永福小学校には、区の支援により地域の有志が子どもたちのための活動を行う「学校支援本部（※）」が設置されており、保護者はそちらに参加することで子どもたちのための活動に関わることも可能となっている。
主な成果や 今後の課題	新しい組織へ移行し、保護者の実情に合わせた運営をすることができている。新しい組織形態の設立を契機として会員が活動を見直し、負担感の大きな活動を取り止めるなどしたことで、やりたい活動に注力できるようになった。

（※）学校支援本部とは、「地域の志のある人たちと一緒に学校の教育活動などを支援するために設置された、ボランティアによる新しいネットワーク型組織」であり、杉並区教育委員会の取組として平成18年から開始され、平成24年には区内の全小中学校に設置されている。（出所：杉並区ウェブサイト「学校支援本部」<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s111/7643.html>）

(参考) 新入生向け永福小学校PCAの案内

(表面)



EIFUKU PCA

新しい保護者会「PCA」へようこそ
新一年生保護者の皆さまへ

永福小では本年度より、これまでのPTAを改め、より時代に合った形で誰もが参加しやすい組織、「PCA (Parent Communication & Community Association)」を立ち上げました。「保護者みんなで支え合い、子どもたちの未来をより良くする」という目的はそのままに、より柔軟に参加しやすい組織へと生まれ変わりました。

PCAのモットーは「できる人が、できる事を、できる時に」

- ・無理な役員決めや強制的な当番制を廃止しました。
- ・誰でも無理なく参加できるよう、行事ごとに都度お手伝いを募集します。
- ・小さなことでも、「やってみよう」というお気持ちを大切にします。

PCAの特徴

無理な役員決めや必須の当番はありません
行事などは都度お手伝いを募集。可能な範囲でご参加ください。無理な勧誘は行いません。
専用連絡アプリで情報提供
PCAからの連絡は、アプリでスムーズにお届けします。 ご登録いただくだけで、重要な情報やイベント予定を簡単に確認できます。 ※登録方法は「登録のご案内」をご覧ください。
安心の団体保険に加入
PCA活動中の事故やケガは保険でサポートします。安心して活動にご参加ください。
時代に合ったPCA運営で、無駄なくスマートに
令和6年度の会費は。運営方法を刷新し無駄なコストを削減しました。

PCAの活動について

学校行事のサポート	安全サポート	情報共有の場	自発的活動もOK!
行事ごとに必要な範囲で、可能な方がご協力いただければOKです	子どもたちの安全を見守る取り組み	保護者間での意見交換や学校との連携をスムーズに行える仕組みを整えます	参加者がやりたいと思うことを提案し、みんなで実現します

入会のご案内

永福小PCAは、どなたでも気軽に参加できるオープンな組織です。入会に際して役員や委員、係などの義務はありません。「少しでも手伝ってみようかな」という気持ちから始めていただければ大丈夫です。私たちと一緒に、無理なく楽しく子どもたちをサポートしていきませんか？

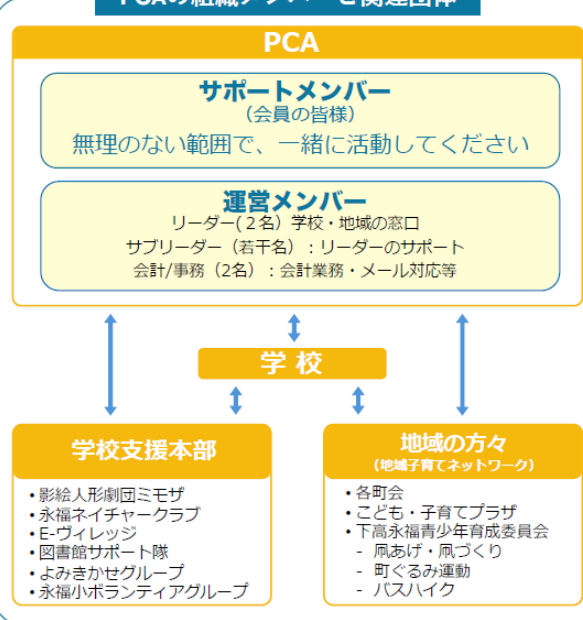
※入会される方は「登録のご案内」をご覧ください。「かくぶり」への登録をお願いします。登録をもって入会とさせていただきます。ご不明点はメールにてお問い合わせください。

「できる人が、できる事を、できる時に」
永福小PCA

(裏面)

できる人が、できる事を、できる時に
PCAの活動

PCAの組織メンバーと関連団体



PCA

- サポートメンバー**
(会員の皆様)
無理のない範囲で、一緒に活動してください
- 運営メンバー**
リーダー(2名) 学校・地域の窓口
サブリーダー(若干名) : リーダーのサポート
会計/事務(2名) : 会計業務・メール対応等

学校

学校支援本部

- ・影絵人形劇団ミモザ
- ・永福ネイチャークラブ
- ・E-ヴィレッジ
- ・図書館サポート隊
- ・よみきかせグループ
- ・永福小ボランティアグループ

地域の方々
(地域子育てネットワーク)

- ・各町会
- ・こども・子育てプラザ
- ・下高永福青少年育成委員会
- ・ 風あげ・風づくり
- ・ 町ぐるみ運動
- ・ バスハイク

活動内容は子供たちの活動のサポートです

運動会・学習発表会など学校行事のサポート
給食試食会のご案内
ラジオ体操等PCA主催のイベント準備・運営
地域/地区行事の運営サポートなど

※定期的な会議はなくかくぶりやLINEグループなどでのやり取りをしています
※メンバー全員でフォローし合い、それぞれ時間がある時に活動しています

プリント配信アプリ導入による業務効率化

実施に至った背景・経緯	- 新しい組織形態の設立にあたり、運営方法の効率化についても検討した。以前は印刷費（紙代、インク代等のプリンタ維持費）に多額の費用がかかっており、見直しの余地があると考えていた。 - また、印刷のためだけに学校に行き、先生に配布を依頼するなど、作業負担も大きかった。さらに、プリンタ設置のため学校の教室を1部屋確保してもらっていたが、利用回数が少なく、有効に活用できていない場所となっていた。
取組のポイント	PCAとして、保護者向けのプリント配信アプリを導入した結果、以下のような業務の効率化等が実現した。 【会員向け連絡・周知の効率化】 - PCAからの連絡はアプリ上で配信する運用とした。 - その結果、印刷・仕分け・配布・回収の手間がなくなり、役員の作業負担を大きく減らすことができた。 会員の既読状況が把握でき、未読の会員への再周知もスムーズに行えることから、情報の伝達漏れを防ぐことができる。 【各種アンケートや募集業務の効率化】 行事の参加可否、サポーター募集、アンケートなどをアプリ上の機能で手軽に回収できるようになった。 - 未回答者へのリマインドも簡単に行うことができ、回収率の向上に寄与している。 回収と同時に集計がアプリ上で完了することから、事務負担を大きく減らすことができている。 【役員・サポーター間のコミュニケーションの円滑化】 - アプリ内でグループを作成することができ、活動内容ごとにグループを作成することで、情報共有やコミュニケーションが容易となる。 【PCA室の有効活用】 - 上記印刷業務が不要になったことや学校では教室が足りていない状況をふまえ、常時PCA室として借用していた教室を、普段は学校が使用し、必要があるときのみPCAが利用できる運用に改めた。
主な成果や今後の課題	- コスト削減と保護者の各種作業に伴う手間の削減に加えて、日々のコミュニケーションが取りやすい環境が整備できている。 - 利用頻度が少なかったPCA室を普段は学校に使用してもらうことで、教室の有効活用にも寄与している。

「令和の時代」における運営優良事例 | 川崎市立西野川小学校PTA

運営方法の改善		主体的な活動参加の促進		PTA活動の周知
運営の適正化	デジタルツールの活用	組織の見直し・活性化	学校・地域・関係者との連携	広報活動
●		●		●

事例のポイント

- 令和4年度以降、従来の保護者の負担が大きい運営の在り方を改め、運営の適正化や会員が活動しやすい体制へと変革を進めていった。その際に、**川崎市PTA連絡協議会が作成した「PTA活動における適正化・活性化ガイドライン」**を活用した。
- その結果、運営の適正化については、任意加入の周知や、個人情報および会計の適正な管理等を実現。
- 運営体制の見直しについては、**委員会制を廃止し、子どもサポートセンターでのサポートリーダーと都度募集の単発ボランティアによる活動**とし、活動の内容や実施期間を見直した。
- 活動のスリム化だけでなく、**有志による自主企画も可能な仕組み**とし、会員の主体的な活動が生まれている。
- さらに、広報活動にも注力し、**PTAのホームページの作成やSNSを活用した情報発信**も行っている。

学校情報

学校名	川崎市立西野川小学校
所在地	神奈川県川崎市宮前区
児童数	360名（令和7年5月1日現在）
学校の特徴	1980（昭和55）年に創立。 学校教育目標は「明るく元気な子」、「仲良く助け合う子」、「よく考え工夫する子」、「最後までやりぬく子」。 周りは住宅地やマンションが多く、畑や果樹園、公園など、緑豊かな野川のまちに位置する。

出所：川崎市立西野川小学校ウェブサイト（<https://kawasaki-edu.jp/2/602nisinogawa/index.cfm/1,html>）を基に作成

ガイドラインを活用したPTA運営の適正化

実施に至った背景・経緯	- 以前は、委員会制は一律1年任期で、「子ども一人につき2ポイント」集める必要があるという会員の負担が大きいシステムであった。 - PTAはあくまで任意団体であるという認識のもと、現状の課題解決を目指し、川崎市PTA連絡協議会が作成した「PTA活動における適正化・活性化ガイドライン」を参照しながら、令和4年度以降運営の適正化や会員が活動しやすい体制へと変革を進めていった。
取組のポイント	【ガイドラインを活用したPTA運営方法の見直し】 - 前例踏襲で長年引き継がれてきた運営方法の見直しは簡単なことではなく、役員からも様々な意見が出され、約1年をかけて議論を重ねていった。 - その際に、運営面の適正化については、川崎市PTA連絡協議会が作成した「PTA活動における適正化・活性化ガイドライン」を参照し、任意加入の周知や、個人情報および会計の管理については、任意団体であっても守るべきルールであることを役員内で共有することで、合意形成につなげていった。 - 会員（保護者・教職員）からの「ありがたい姿」を聞くアンケートや対面による意見交換会・説明会等にて丁寧に対話を重ね、共通認識を作っていた。体制変更を円滑に進めるために、試行運用期間（2年間）を設け、ボランティア文化の浸透と運用改善を図りながら、令和7年度に正式に規約を改正した。「ボランティア」の本質を理解してもらうために、会員に委員会制とボランティア制を経験してもらい、会員が自ら選択して決定するというプロセスを経た。 【運営適正化に向けた体制整備 ①入会手続き・個人情報管理】 - 入会手続きについては、任意加入を周知した上で、「PTA入会意思確認兼個人情報取扱同意書」を作成し、毎年、全家庭に対し入会の意思確認を行っている。 - PTAの個人情報取扱規則を見直し、個人情報の適切な管理を行うとともに、上記書面にて入会意思確認と合わせて、個人情報取扱に関する同意取得を行っている。 - 入会を決めた人は、PTAからの情報伝達用のアプリに登録し、アプリ内で活動への参加方法を選択できる仕組みを整備。 - 一連の入会手続きのプロセスや書面についてはホームページ上にも掲載し広く周知。 【運営適正化に向けた体制整備 ②会費収納業務の委託契約】 - PTAは学校法人とは独立した組織であることから、PTAと川崎市が会費収納業務の委託契約を締結し、PTA会費の引き落としを学校に委託している旨を会員に対して伝えるとともに、入会意思確認時に会員からの同意を取得している。 - 公費（学校予算）と私費（PTA予算）の用途の区別や、寄附採納手続きについても明確化した。
主な成果や今後の課題	- PTA組織としての運営の適正化が図られた。各種運営マニュアル等も整備されつつあり、次の世代に引き継ぎがしやすい状態になっている。 - 任意加入へ移行後、会員が大きく減ることはなく、令和7年度時点でも9割以上の保護者が加入している。ただし、重要なのは加入率よりも参加したいと思えるような場をつくっていくことであり、保護者同士がつながる楽しさ、メリットのあるPTAであれば自ずと人は集まると考えている。

図表：入会時の手続きの流れ

Step 1 入会届兼個人情報取扱同意書の提出

- 入学説明会にて紹介資料と申請書を配布
- PTA規約とPTAのしおりを確認し、「入会届兼個人情報取扱同意書」にて入会に意思確認を実施
- 書面は担任へ提出

Step 2 会員専用のお便り配信アプリの登録申請

- 入会する場合、単発ボランティア募集のお知らせやイベント案内等を受け取れるアプリに、会員登録（ペーパーレス化と役員の負担軽減を実現）

Step 3 活動参加方法の選択

- 参加の方法は4パターンであり、都合に応じて選択できる。
- 役員本部（役職・任期あり）
 - サポートリーダーズ（任期あり）
 - 単発ボランティア（都度募集）
 - 有志企画リーダー（手あげ制）

図表出所：川崎市立西野川小学校PTAウェブサイト「会員登録の手続き」（会員登録の手続き - 西野川小学校PTA）を参考に作成

「令和の時代」における運営優良事例 | 川崎市立西野川小学校PTA

(参考) PTA入会意思確認兼個人情報取扱同意書

新一年生保護者の皆さま

令和 8 年 1 月 23 日
西野川小学校 PTA

PTA 入会意思確認兼個人情報取扱同意書のご案内

本日は入学説明会にご参加いただきありがとうございます。
西野川小 PTA では、令和 5 年度より、入会する際に「PTA 入会意思確認兼個人情報取扱同意書」を提出していただくこととなりました。
PTA は、学校と保護者と地域が協力して皆で健やかな児童を育てていくために活動している任意団体です。
私たちの PTA では『ボランティア制』を採用しております。誰もが参加しやすい、できる時に、できること」で学校と子どもたちを応援しています。入会は任意ですが、子どもたちの安全で楽しい環境を支えるためには、みなさまのご協力不可欠です。ぜひ「チーム西野川」の活動の趣旨をご理解いただき、本 PTA への入会をお願いいたします。
ご不明な点は、西野川小 PTA のメールアドレス [redacted] までご連絡ください。

「PTA 入会意思確認兼個人情報取扱同意書」

の提出について

対象者: **全家庭**
提出締切: **令和 8 年 4 月 7 日**
提出先: **担任の先生まで**

西野川小学校 PTA 会長行

PTA 入会意思確認兼個人情報取扱同意書

申込日: 令和 年 月 日

児童との続柄	保護者氏名 (ふりがな)

クラス (27 年度の新学期で記入)	児童氏名(ふりがな) (27 年度在学中の児童会委員の氏名を記入してください)
年 組	
年 組	
年 組	

※口のどちらかにチェックをお願いします。

☐ 私は、西野川小学校 PTA に入会します。

- (1) つきましては、PTA 会費 [redacted] の引き落としを学校に委託することに同意するとともに、別紙「西野川小学校個人情報取り扱い規則」を確認の上、個人情報の取り扱いに同意します。
- (2) 【確認事項】
- ・本校 PTA は入会意思のある本校児童の保護者と本校教職員で構成する任意団体です。
 - ・本校 PTA は会費の引き落としを学校に委託し、学校徴収金と同じ金融機関 ([redacted]) から後期一括・きょうだい家庭は一番下のお子様の学校徴収金に含めて引き落としとなります。
 - ・入会届の個人情報、個人情報保護法及び「川崎市立西野川小学校 PTA 個人情報取扱規則」に則り本校の PTA 活動のみに使用します。卒業・転出時に破棄します。
 - ・入会后、PTA からの連絡ツールとして、プリント配信アプリ「[redacted]」への登録が必要になります。

☐ 私は、西野川小学校 PTA に入会しません。

- (1) 本校 PTA は随時、入会可能となっております。毎年入会の意思確認を全家庭に実施いたします。
- (2) 全世帯に届くお知らせについては、非入会のご家庭にもお手紙の配布をさせていただいております。ご了承ください。

※全家庭の提出が必須となります。

4/8 までに担任の先生へ提出をお願いします。

PTA 使用欄:	☐ 登録	☐ 済
	令和 年 月 日	
	会費受領	☐ 済
	令和 年 月 日	

令和 8 年度からは、
外国にルーツのある家庭向けに
多言語対応 (英語版) の書面も運用予定

January 23, 2026

Dear Parents of New First Graders,

Nishinogawa Elementary School PTA

Notice Regarding PTA Membership Confirmation and Personal Information Handling Consent Form

Thank you for attending today's enrollment orientation.
Starting in the 2023 school year, the Nishinogawa Elementary School PTA requires the submission of a "PTA Membership Confirmation and Personal Information Handling Consent Form" upon joining.

The PTA is the abbreviation for Parent - Teacher Association, and a voluntary organization that works to foster healthy children through cooperation among the school, parents and the community.
Our PTA operates on a voluntary basis. We encourage everyone to participate, supporting the school and children by doing "What they can, and When they can". While membership is voluntary, your cooperation is essential to maintaining a safe and enjoyable environment for our children. We sincerely hope you will understand the purpose of Team Nishinogawa's activities and consider joining our PTA.

For any inquiry, please feel free to contact the following E-mail address of Nishinogawa Elementary School PTA.

Submission of the "PTA Membership and Personal Information Handling Consent Form"

Target: **All households**

Submission Deadline: **April 7, 2026**

Submission Destination: **to your homeroom teacher**

出所: 川崎市立西野川小学校PTAウェブサイト「会員登録の手続き」(会員登録の手続き - 西野川小学校PTA) および川崎市立西野川小学校PTA提供資料を基に作成

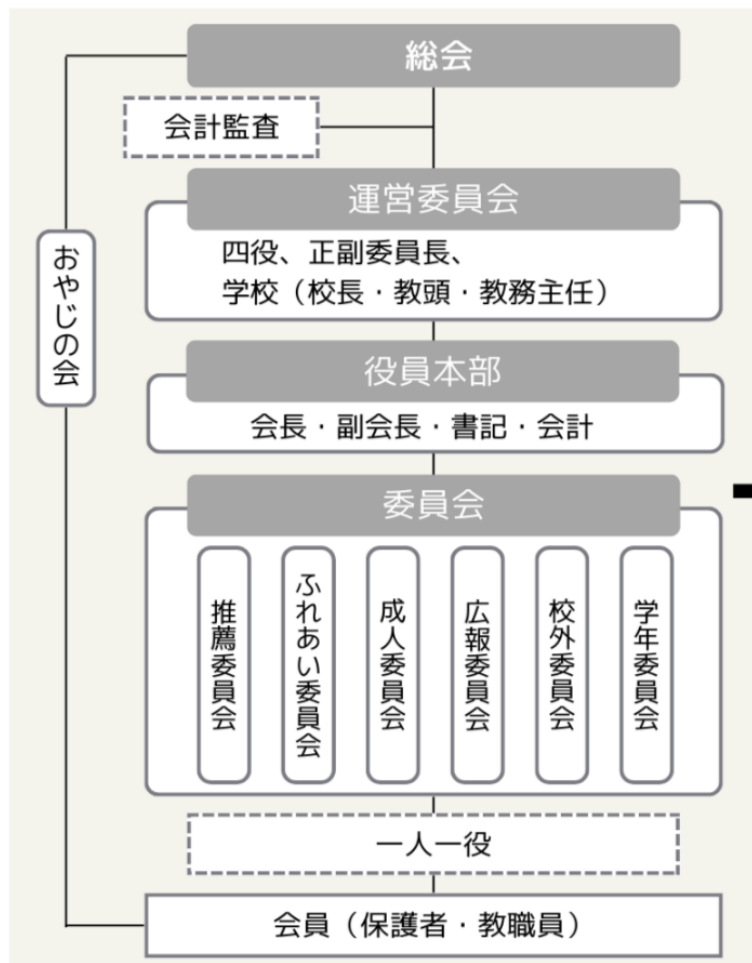
組織の見直し・活性化の取組

実施に至った背景・経緯	- 従来のポイント制は活動の担い手確保のために導入されたと考えられるが、加入者が精神的に大きな負担を感じ、活動に強制感が生じる状況となっていた。 - 子どものたちを取り巻く社会的・教育的課題がより複雑・多様化している中、「PTAを存続させるため」ではなく、「子どものために保護者同士と地域の豊かなつながりを取り戻す」ことが重要との認識から、保護者が楽しさを感じられ、自ら参加したいと思えるような体制を目指した。 - 数十年続いてきた制度を変えるのは勇気のいることだが、「子どもたちや次の世代に渡せるものを創りたい」という思いで、役員で議論を重ね新しい組織体制について検討を進めた。
取組のポイント	【体制のスリム化】（次項参照） - 従来は1年任期の委員会が複数あり、それぞれの正副委員長が多くの業務を担っていた。 2023年度以降は、委員会活動は子どもサポートセンターに名称を改め活動内容を見直し、各活動はサポートリーダー（取りまとめ役）と都度募集する単発サポーターが実施する制度とした。体制の見直しにより一人当たりの業務量や負担感を大きく減らした。 - PTA活動への関わり方については、加入者が「役員本部（役職・任期あり）」、「サポートリーダーズ（任期あり）」、「単発ボランティア（都度募集）」、「有志企画リーダー（手あげ制）」の役割の中から参加方法を選択する方式へと移行した。アプリを用いてアンケート形式で募集を行っており、単発ボランティアには多くの人が集まる状況である。 - 本部役員と「実施したい重要な活動」のサポートリーダー以外は、選出を必須としない運用（希望者が集まれば活動実施）としている。サポートリーダーの任期についても、一律1年間ではなく、活動実施時期に応じて半期のみ等、1年よりも短く設定している場合もある。 【活動の位置づけの見直し】 - 子どもサポートセンターでの活動については、「実施したい重要な活動」と「参加者が集まらなければ実施しなくても良い活動（集まらない理由があり、需要や活動形態を見直すべき活動）」に位置づけを整理している。 - 年度当初に実施を予定している活動以外に、有志の企画も提案できる仕組みとなっており、会員による主体的な活動も行うことができる。 図表：子どもサポートセンターの主な活動 〈年間活動〉 資源回収 ハロウィンパトロール FB広報 ICT 役員サポート その他 〈前期/後期活動〉 こども110番 旗振り 備蓄品 先生紹介号広報誌 運動会 〈不定期〉 避難所会議 ベルマーク 水回り清掃 図書読み聞かせ 凡例 黄色：実施したい重要な活動 緑色：参加者が集まらなければ実施しなくても良い活動
主な成果や今後の課題	- 令和5～7年度の3年間で、サポートリーダーズや単発ボランティアの参加者数は委員会制の時よりも増加。参加方法とタイミングを自由に選べることで、会員が活動に参加しやすくなったといえる。単発ボランティアは集まりやすい一方で、役員やサポートリーダーについては意欲的な保護者への声かけなど、無理のない範囲で参加を呼びかけている。 - 組織体制の見直しにより活動をスリム化するばかりではなく、会員がやってみたいことに挑戦できる有志企画枠で令和7年度は5つのプロジェクト（「ふれあいフェスタ」、「おうち性教育」、おやじの会主催での「どんと焼き」など）を実施するなど、会員の主体的な活動が生まれている。

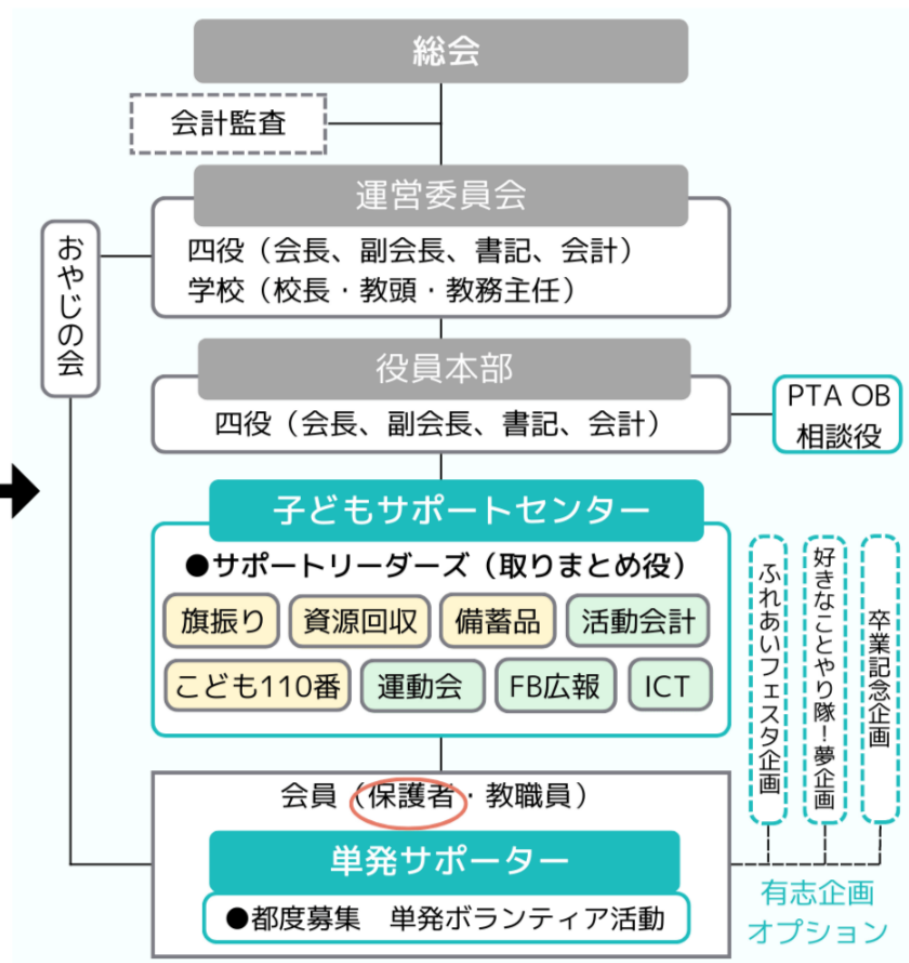
図表出所：川崎市立西野川小学校PTAウェブサイト「新体制と変更点」（新体制と変更点 - 西野川小学校）およびヒアリング内容を基に作成

組織の見直し・活性化の取組 （補足）従来の組織と2023年度以降の新しい組織

●従来の役員・委員会制



●新しい子どもサポートセンター・ボランティア制



組織の見直し・活性化の取組 (補足) 改革のポイントのまとめ

PTAは任意加入団体

①入会届を提出する

- ・ チーム西野川の方針を理解して入会
- ・ 自由意思の途中入会・退会が可能

②個人情報取扱同意書を提出する

- ・ 適正化を進める
- ・ 人権やプライバシーを守る

③ポイント制は廃止

- ・ 「やらなきゃ」から「やりたい」PTAへ
- ・ 友達同士で参加しやすくなる
- ・ きょうだいが多い家庭の負担が減る

④連絡用アプリを利用する

- ・ お便りのペーパーレス、SDGs推進
- ・ いつでもどこでも、忙しい保護者に便利な仕組み
- ・ いざというときの災害避難対策としても有効

ボランティア制の導入

①より地域密着型の郊外活動へ

- ・ 旗振り、資源回収見守りを保護者みんなで支えあう形へ
- ・ ご近所の人たちでサポートしあえる体制に
- ・ 子どもたちを地域みんなで見守る

②都度募集のボランティアへ

- ・ 活動を細分化して短時間でもできるように
- ・ いろんな立場の人が参加しやすい持続可能な仕組みへ
- ・ できるときに、できることを何度でも気軽に実践できる

③イベントは有志の「手上げ制」で

- ・ やりたい人が自由に考えて開催出来たらもっと楽しい
- ・ 大人数で叶える子どもたちの思い出作り
- ・ 大人も夢を実現したい！パパさんも大活躍

広報の取組

実施に至った背景・経緯	従来、活動の積極的な発信はしていなかったが、PTA改革を進める中で、団体としてホームページ（HP）の整備や活動の様子を会員に知らせるためのSNSの活用は必要であると考え、体制を整備した。
取組のポイント	【HPの整備】 - 担当者はウェブサイト作成の経験はなかったが、ウェブサイト作成ツールを活用し、外部発注はせずに作成。固定費はかけずに、自分たちの手でメンテナンスできる方法を採用した。 - HPはPTAとしてのルールや活動方針、活動内容などの情報を掲載するために活用している。 2022年度からのPTA改革の軌跡も公表し、後から加入する人にも経緯や思いを理解してもらえるようにしている。 【SNSの活用】 - 簡易に情報発信できるように、また多くの人に見てもらえるようにといったことに重点を置き、ウェブサイトのお知らせの更新ではなく、InstagramやFacebookなどのSNSを活用して、会員や地域向けに情報発信している。 【紙媒体の併用】 - A3見開き1枚で、毎年4月に先生紹介号の広報誌を発行している。教職員全員のポーズ写真と楽しいテーマのインタビュー結果を掲載して、学校に親しみがわくような記事を心がけている。先生紹介号は子どもたちの新学期の教材としても活用している。 図表：Instagramでの発信（例） 出所：川崎市立西野川小学校PTAInstagram
主な成果や今後の課題	- 上記のような各媒体を効果的に活用した広報活動が評価され、令和6年3月には川崎市PTA連絡協議会主催の「第2回広報コンクール」にて最優秀賞を受賞。 - 広報活動が充実したことにより、地域の関連団体にもPTAの活動が伝わりやすくなり、これらの団体からの協力を得られるような関係を築ききっかけとなった。

運営方法の改善		主体的な活動参加の促進		PTA活動の周知
運営の適正化	デジタルツールの活用	組織の見直し・活性化	学校・地域・関係者との連携	広報活動
			●	

事例のポイント

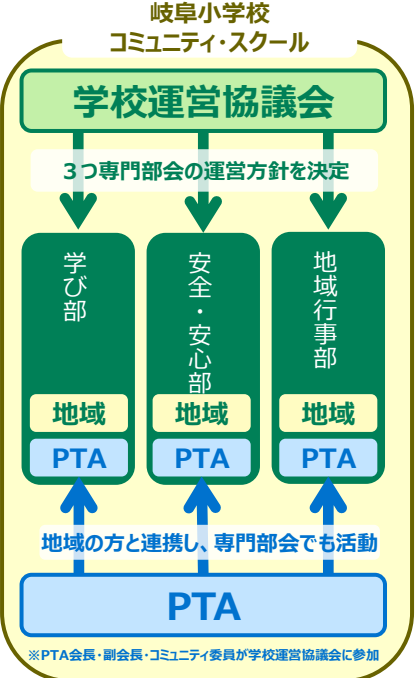
- 岐阜小学校では、PTA単独での活動に加えて、**コミュニティ・スクール**として**地域・保護者・学校が連携し**、子どもたちのための活動を行っている。
- コミュニティ・スクールとして、「学び部」「安全・安心部」「地域行事部」の3つの部会があり、地域からの参加者と保護者（PTA）が協力して、多彩な活動を行っている。近年は特に「子供たちが楽しければいいんやて！」を合言葉に、楽しい体験を通して子どもたちの非認知能力を伸ばす取り組みに力を入れている。
- 地域・学校・保護者の間で、適切な役割分担を行うこと**や、「子どもたちのための活動」を行うという方針を十分に共有することがポイント。

学校情報

学校名	岐阜市立岐阜小学校
所在地	岐阜県岐阜市
児童数	243名（令和7年5月1日時点）
学校の特徴	信長公ゆかりの城下町を校区とする金華小学校と、官公街を校区とする京町小学校が統合し、平成20年度に開校。 開校以来、岐阜市初のコミュニティ・スクール（学校運営協議会）に指定され、地域・家庭と連携し、「ふるさと大好き」を合言葉に地域創造型の学校づくりを進めている。

出所：岐阜市立岐阜小学校ウェブサイト（<https://gifu-city.schoolcms.net/gifu-e/>）、岐阜県教育委員会ウェブサイト「児童生徒数一覧(令和元年度から)」（<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/8246.html>）を基に作成

学校運営協議会に参加する地域の代表者と保護者、学校が連携し、子どもたちのための活動を実施

実施に至った背景・経緯	- 岐阜小学校では、地域の2つの小学校が統合し平成20年に開校した当初より学校運営協議会が設置され、よりよい学校、地域、保護者の連携を目指し、取り組みを進めてきた。 - 学校運営協議会における方針決定のもと、専門部会にて地域と保護者（PTA）が協力して実施する活動のほか、PTA独自の活動も行っており、共働き世帯の増加や少子化の中でも、子どもたちのための取り組みが充実している。 - 近年学校運営協議会では、「子供たちが楽しければいいんやて！」を合言葉に、子どもたちの非認知能力を伸ばす取り組みに力を入れている。
取組のポイント	【地域、保護者、学校が連携する組織体制】 - 学校運営協議会には、地域の代表者、保護者代表、学校関係者、学識経験者が参加している。 - 協議会における方針決定のもと、3つの専門部会が設置され、そこで地域の代表者と保護者（PTA）が協力して、子どもたちのための活動を行っている。 地域、保護者、学校の三者が、対等な関係性のもと適切な役割分担をしながら活動をすることを大切にしている。 「子どもたちのための活動」であるという軸をぶらさず、関係者の間でその意識を共有することにも重要。 - 近年は、「子供たちが楽しければいいんやて！」を合言葉に、子どもたちの非認知能力を伸ばす取り組みに力を入れている。PTA役員経験者が、子どもの卒業後も地域住民として学校運営協議会や専門部会に関わるなど、活動が一層充実している。 【地域と保護者（PTA）が協力して行う活動】 「学び部」では、絵本の読み聞かせや、夏休みに地域の大人が講師となって実施する「サマースクール」（令和6年度は全16講座を開講）などを実施。 「安全・安心部」では、下校見守り、交通安全教室や防災に関する取り組みを実施。 「地域行事部」では、「ふるさとふれあいフェスタ」などの行事を企画運営している。 【PTAが独自に行う活動】 - 令和6年度は「やさしいまなざしと やさしい言葉で 相手を思いやることのできるやさしい心をもった人に」をスローガンに、PTA活動を推進。「給食試食会」や「雪洞絵付け体験」など様々な親子活動を実施。 岐阜小学校 コミュニティ・スクール  <pre> graph TD A[学校運営協議会] --> B[3つ専門部会の運営方針を決定] B --> C1[学び部] B --> C2[安全・安心部] B --> C3[地域行事部] C1 --> D1[地域] C1 --> E1[PTA] C2 --> D2[地域] C2 --> E2[PTA] C3 --> D3[地域] C3 --> E3[PTA] D1 --> F[PTA] D2 --> F D3 --> F E1 --> F E2 --> F E3 --> F F --> G[地域の方と連携し、専門部会でも活動] </pre> ※PTA会長・副会長・コミュニティ委員が学校運営協議会に参加
主な成果や今後の課題	- 学校運営協議会や専門部会には、地域の多様な専門性や職業を持つ人が参加していることから、活動がより充実したものとなっている。 - PTAは毎年多くのメンバーが入れ替わる一方、学校運営協議会や専門部会は複数年参加する人もいることから、活動に継続性が生まれる。 子どもたちのための活動は、地域の参加者にとって楽しく、やりがいを感じられるものとなっている。また、学校運営協議会や専門部会での活動が地域の活力につながっている面もある。

学校運営協議会に参加する地域の代表者と保護者、学校が連携し、子どもたちのための活動を実施

学校運営協議会が発行する、岐阜小コミュニティだより「ふるさと大好き」

学び部



「幸せ活動」増量中!

令和6年度、私たち学び部は、「学ぶって たのしい!!!」を合い言葉に、全員で楽しみながら活動に取り組んできました。

『読み聞かせ』では、地域や保護者のボランティアの皆さんが、年間7回の活動で、100冊を超える絵本を朗読。本の選択から始まり、声色や読み方、人によっては服装にまで趣向を凝らすこだわり様、目を輝かせて本の世界にのめり込む子供たちの姿に、実は毎回、大人の方が癒やされています。

『サマースクール』では、全16講座を開講し、のべ650人を超える子供たちが参加。多くは、地域の大人が講師となっており、授業では経験できない「フラワーアレンジメント体験」「鮎葉子作り」「雪花絞り体験」など、質の高い体験を提供することができました。参加した子供たちの他、見守りに参加いただけた保護者の方や講師の皆様からも、「楽しかった」「毎回楽しみにしています」といった喜びの声をいただいています。

『ふるさとスクール』は、これまでで最高となる3回を開催。毎回試行錯誤しながら、体を使ったゲームや、岐阜小ならではのクイズで楽しんでもらいました。ゲームやクイズを考えている最中から、子供たちの姿を想像し、いつの間にか幸せな気分になっています。

そう考えると、学び部の活動は、「楽しい活動」でもあり、「幸せな気分になれる活動」でもあるんだと思います。学び部合い言葉の「!」の数は、ふるさと大好きにつながる「楽しさと幸せ」増量の目標であり証です。




学校運営協議会



ふるさと大好き

令和6年度
岐阜小学校
コミュニティスクール
2025.3.21
学校運営協議会 発行



学校、地域、家庭、三者の代表が集まり、学校や地域の在り方について知恵を出し合っており、未来を見据えたこの地の「びとづくり」を考えています。コミュニティスクール先進校として、「地域創造型の学校」を目指しています。

安全・安心部

互いに気をつけて生きる

「何のために生きるのか」「生かされている命だれかの為に役立っている」日本は和の国と言われている。今、世界の人が日本は未来の国と羨望の眼差しで見ている。素晴らしい国の一つである。人としてどう役に立つ人間になるのが良いのか、あれこれ考えてみたい。

自分に嘘をつかない、人様にも嘘をつかない、できるだけ親切でありたい、自分にできることはお世話する、そんな心もちたい。私は今、自分に甘えている気がする。ことばの毎日である。暑い、寒い、暗い、と、叱りたい今日である。

横断歩道で歩行者が手をあげていなくても、車がその人が横断しそうな気がするの事前に止まるようになってきているように思う。見落としてしまうこともあるから、歩行者は横断する前には手を上げる勇気をもたない、車から見ていると横断したいのか、ただ立っているのか、まぎらわしい時がある。

運転者の一人として車に乗っているとき、私も赤信号が目に入らず通過したことがある。冷や汗のものである。逆の体験もある。横断中、信号は青であったにもかかわらず、軽トラックが目の前50cm前を時速40〜50kmで通過していったときがある。一瞬のことで、全身が凍りついた。息が止まり「ごらー」とも言えず、びっくりにしたことがあった。一歩足が前に出ていたら飛ばされたと思う。

運転者も歩行者も互いに気をつけたいものですね。横断するとき、手をあげましょう。車はスピードを控えましょう。

今まで無事にこれまでに感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。皆様のご健康をお祈り申し上げます。



地域行事部



防災力=ふれあい力=コミュニティ力

地域行事部では、「ふるさとを愛し、人とふれあい、つながる輪」というテーマのもと、ふるさとを愛する子供を地域全体で育てることを重点課題とし、金華・京町の地域行事の日程調整を画ったり、地域行事部最大の行事である「ふるさとふれあいフェスタ」の企画運営を行ったりしています。

令和6年1月1日に能登半島での震災がありました。その後開催された地域行事部会で挙った「防災に関するフェスタを開いてみよう」という声から、今年度は防災をテーマにフェスタを企画し、小学生、保護者、学校、地域のみならず有意義で楽しいワークショップを開催することができました。

参加者がいろいろな体験をする内容になっており、各種団体の皆様の協力のもと、普段では見学できないような施設などの施設を見学させていただいたり、水消火器を実際に使ってみる、マッチで火をつけてみる等の体験をしたり、防災にまつわるクイズをみんなで考えて答えたり...と盛りだくさんの一日でした。

地域行事部では、すべてのグループが時間内にゴールできるようにポイントの数を工夫したり、各ポイントの内容を細かく設定したり...と、企画段階からスタッフも楽しく準備し、当日も子供たちの笑顔に本当に励まされました。

今後も、子供たちが地域の中で心豊かに成長でき、また自分が地域の一員であることを実感できるような「ふれあい」を大切に行事を企画運営していきます。来年度以降も、「ふるさとふれあいフェスタ」を軸にした、「ふるさとが大好き」になるような活動を目指してまいります。





「令和の時代」における運営優良事例 | 名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校PTA

運営方法の改善		主体的な活動参加の促進		PTA活動の周知
運営の適正化	デジタルツールの活用	組織の見直し・活性化	学校・地域・関係者との連携	広報活動
		●	●	

事例のポイント

- PTAとは保護者と教員が任意で参加する社会教育団体である、という原点に立ち返り、時間をかけて組織の在り方、活動の在り方を見直してきた。
- 以前は、役員・委員として20名以上を選出していたが、学級ごとの選出を学年ごとの選出にするなど枠組みを見直し、**立候補者（やりたい／やってもよい）人のみが役員に就任する運用**に移行。
- 意義のある活動は残しつつも、形式的な運用や負担の大きな活動は見直し、**部会制ではなくプロジェクト制を導入**することで、当該年度の役員が**関心のあるテーマで活動**を行えるようにした。
- その結果、**学校（教員、キャリアナビゲーター）と良好な協力関係**を築きつつ、活動を希望する人がやりたいことを実現できるPTAとして、様々な活動を行っている。

学校情報

学校名	名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区
生徒数	268名（令和7年9月1日時点）
学校の特徴	昭和23年9月開校。古くからの住宅地や商店街が残る学区である。杉原千畝が少年時代を過ごした愛知県立第五中学校の跡地に建つ本校には、石碑や少年像があり、その名残をとどめている。

出所：名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校ホームページ（https://nagoya.fureai-cloud.jp/_view/mizuhogaoka-j）を基に作成

任意団体であることを前提とした、形式にとらわれない組織運営

実施に至った背景・経緯	・ コロナ禍で従来通りの活動ができなくなったことを契機に、運営の在り方について見直しを実施。 ・ 当時の役員・委員の間では、強制的に委員を選出することへの嫌悪感や、やりたいことではない仕事を割り当てられる不満感が募っていた。そうした不満や改善要望を出し合うだけでは終わらず、具体的な論点を整理し、令和3年度から現在にかけてPTA運営の改革を実施。
取組のポイント	【役員・委員の選出人数・条件の見直し】 ・ 令和2年度以前は「各学級3名選出」という縛りがあり、役員・委員は総勢20名以上であった。 ・ 令和3年度以降は、「各学年4名」→「各学年3名」→「各学年3名程度（学年ごとの選出人数のばらつきを許容）」と、徐々に柔軟に希望者を募る形式へと移行。令和7年時点では10名程度で活動。 【役員・委員の選出方法の見直し】 ・ 令和2年度以前は、自薦もしくは他薦により、定められた人数を集める方式であった。 ・ 令和3年度以降は、保護者が「ア：立候補する」「イ：誰もいなかったらやってもよい」「ウ：（アとイの）どちらも望まない」いずれかで意思を表明。各学年の希望者が2名に満たない場合には再度呼びかけを行い、やりたい／やってもよい、という人のみが役員に就任。 ・ 義務感・負担感・やらされ感を払拭することに注力し、「役員が上」ではなく「会員同士は対等」というメッセージも発信。 【役員・委員の選出の時期の見直し】 ・ 令和3年度以前は、新年度4月になってから選出していた。 ・ 令和4年度以降選出時期を前倒し、令和6年度からは2月に選出。引き継ぎや次年度の活動開始が円滑になるよう工夫している。 【部会制の見直し】 ・ 令和2年度以前は、会長や学年代表といった役職の他に、セミナーの開催等を行う「成人教育部」、校区内のパトロールを行う「校外補導部」、広報誌の作成等を行う「広報部」という3つの部会があり、それぞれ部長と副部長を選任していた。 ・ 令和3年度以降は徐々にその役割や活動体制を見直し、会則改正等を経て令和6年度以降は部会を廃止。現在は、会長、筆頭副会長、学年代表（3名）を中心に、それぞれの活動について一定の役割分担をしながら全員で行う体制としている。 ・ 具体的には、「成人教育部」は定期的なセミナーの運営ではなく、プロジェクト形式（P33参照）にて当該年度の委員が関心を持つテーマで保護者にとって学びとなる取り組みを実施。「校外補導部」は市の一斉パトロールへの参加ではなく、定期的に危険箇所のチェックと報告を実施。「広報部」は学校による情報発信との重複を解消するとともに、広報誌の外部発注をやめ広報物作成の負担を軽減した。
主な成果や今後の課題	・ 上記の取り組みによりPTAの枠組みが変わることで、保護者にも「本当に変わるんだ」という実感を持ってもらうことができた。 ・ 現在では、個別の勧誘をせずとも、前年度イベント等の活動に参加した人や、PTA活動の説明を聞いた新入生の保護者が興味を持って立候補するなど、「やりたい」「やってもよい」という人が集まり活動を実施している。

「令和の時代」における運営優良事例 | 名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校PTA

任意団体であることを前提とした、形式にとらわれない組織運営

■運営体制の変遷

	令和 2 年度以前	令和3年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
役員・委員の 選出人数 ・条件	各学級 3 名選出 役員・委員数： 22名	各学年 4 名選出 役員・委員数： 13名	各学年 3 名選出 役員・委員数：10名		各学年 3 名程度選出 (学年ごとの人数のばらつきを許容) 役員・委員数：10名程度	
役員・委員の 選出方法	自薦または他薦により、定められた委員数を確保	立候補制に移行し、保護者が、「ア：立候補する」「イ：誰もいなかったらやってもよい」「ウ：（アとイの）どちらも望まない」いずれかで意思を表明。やりたい／やってもよい、という人のみが役員に就任。 ※令和 6 年度以降、各学年の希望者が 2 名に満たない場合には再度呼びかけを実施。				
役員・委員の 選出の時期	4 月		3 月		2 月	
活動体制 (部会制から プロジェクト 制へ)	会長や学年代表等の役職に加え、成人教育部、校外補導部、広報部の 3 つの部会をおく体制。	PTA役員数自体を減らしたため、10名程度の役員全員が何かしらの役職に就任。 部会については「成人校外補導部」「広報部」の 2 部体制に変更。			主な役職は会長、筆頭副会長、学年代表 3 名。 部会は廃止し、一定の役割分担をしつつ全員で活動を行う体制。	

出所：名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校PTA提供資料を参考に作成

プロジェクト形式で保護者が主体的に活動する、社会教育団体としてのPTA活動の実践

実施に至った背景・経緯	従来は各部会において前年度と類似の活動を行うことが中心であったが、PTAの枠組みの改革を進める中で、社会教育団体として役員自身に関心のあるテーマで活動を行うことを目指し、令和5年度からプロジェクト形式にて活動を実施。
取組のポイント	【プロジェクト形式でのPTA活動実施の前提となる考え方】 - 当該年度に役員となった人の関心に応じてテーマを設定している。活動によってはあらかじめ複数年かけて取り組むことを予定するものもあるが、継続する義務はなく、次年度以降やめるという選択肢は常にあることを意識している。 - 一方で、これまで継続されてきた活動で、本校PTAとして取り組む意義のあるものについては、残していく判断をしている。例えば本校PTAが主催し、近隣の小学校2校と地域の関係者を招く「三校合同セミナー」は、中学校区単位で地域の関係者が集まる貴重な機会であることから、プロジェクトの一つとして内容をリニューアルし「瑞中フレンドシッププロジェクト」として実施。 【学校と連携したプロジェクトの実施】 - プロジェクトの組成にあたっては、年度初めに役員それぞれがやりたいことを付箋に書き出し、カテゴリー分けし、実施内容を決めている。プロジェクトへの関わり方の希望も聴取し、リーダーとして関わる人、情報共有だけ受ける人、広報を手伝う人など多様な関わり方を互いに認め合っている。 - 年6回程度行う役員会には、学校から教頭とキャリアナビゲーター（※）が出席し、情報を共有する場となっている。PTA役員が決めたプロジェクトのテーマが、学校側の関心とも重なり、学校の授業や生徒の部活動（キャリアクラブ）とも連携することでより充実した活動が生まれている。 - 令和6年度には、子どものSNSとの関わり方やスマホの使い方不安を抱えていた1年生の保護者の役員の発案で、3年間の「SNSプロジェクト」を開始した。さらに、大地震等の災害への備えが不十分という問題意識から始まった防災に関するプロジェクトでは、キャリアナビゲーターと共に準備を進める中で、生徒たちの希望を受けて夏休みに体育館へ泊まり込み避難所設営等を行うイベントを実施。 （※）キャリアナビゲーター：キャリアコンサルタントの国家資格を有する専門家であり、名古屋市では全ての市立中学校、高等学校、特別支援学校に常勤で配置。本校では、PTAとの連携にも大きな役割を果たしている。 「夏休みわくわく学校キャンプin防災」の様子 （出所）名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校PTA提供写真
主な成果や今後の課題	やりたいことを形にすることができ、役員自身が充実感を感じることができている。 - 学校と連携しつつも、PTAが主体となってイベントを実施することで、生徒は全員参加ではなく任意参加とする、年度当初には予定されていなかった活動を行う、といった柔軟な対応が可能となっている。

(参考) PTA役員選出に関する書面とPTA活動報告

令和8年2月6日

保護者 様

名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校PTA
会 長

令和8年度 PTA学年委員の選出について

日頃よりPTA活動にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。本校PTAは令和3年度より、より良いPTAの在り方を目指して取り組んでいます。今年度も見直しをしながら活動を進めてきました(主な活動は裏面をご覧ください)。今後も負担なく子どもたちのために活動していきたいと思っています。

そこで、来年度一緒に活動して下さる方を募集します。下記の選出用紙にご希望を記入の上、ご提出いただけますようお願いいたします。

記

1 学年委員選出用紙記入方法と提出方法
今年度のご希望について、下記用紙の「ア・イ・ウ」のいずれかに○を付けて、お子様の学年、組、番号、名前、ご自身のお名前をご記入いただき、切り取り線以下を担任の先生にご提出ください。(封筒に入れる必要はありません)

2 提出締め切り
令和8年2月16日(月)まで

3 その他
結果は、後日、お子様を通して文章にてご連絡させていただきます。

瑞中PTA活動 5つの見直しポイント

目的の再確認
活動の精選
委員の減数
作業の効率化
会費会計の見直し

----- 切 り 取 り 線 -----

PTA学年委員選出用紙(令和8年4月7日現在)

お子様の氏名 _____ 年 組 番 _____

兄弟姉妹の氏名 _____ 年 組 番 _____

保護者名(ご自分の氏名) _____

いずれかの記号に○を付けてください

ア 学年委員をやってもよい
イ 誰もやる人がいないならやってもよい
ウ どちらも望まない

2月16日(月)までにご提出ください。

令和7年度 瑞穂ヶ丘中学校PTA 活動報告

令和5年度に発足した「瑞中フレンドシッププロジェクト」。「〇〇しなくてはならない」ではなく、話し合いや意見交換をしながら、気になる事や知りたい事を自分たちで企画して取り組んでいく、そして、その気持ちを、1人でも多くの皆様に伝えたいと思っている、心温かいPTAが実現しました！

今年度の主な活動をご紹介します！

《スクールランチ試食会》瑞中 ランチルームにて 2025.6.26
子どもたちが食べているランチBOXを試食してみたいというお声から、開催が決まりました。子どもたちが何を食べているのかを知ることができてよかった。毎年開催してほしい、などのご感想をいただいています。来年度も開催！

《夏休みわくわく学校キャン in 防災》瑞中 体育館にて 2025.8.6-7

キャリア(防災)クラブを中心に避難所運営をし、停電体験や肝試しなど、学び50:楽しさ50の体験をしました。PTA側のテーマは「子どもたちの主体的な挑戦を見守り、ともに学ぶ」と設定。親子で防災を見直し、学校に宿泊することで地域防災への意識が高まりました。やってみて初めて気づくことも多く、子どもも大人も学びの深い二日間でした。

《思春期セミナー》瑞中 体育館にて 2025.11.26
社会的にも重要な性教育について、学校で子どもたちがどのように学んでいるのかを知る、貴重な機会となりました。特に男の子への関わり方に悩んでいた中で、家庭での声かけや対話のきっかけをいただけたことが印象的でした。先生方の楽しい工夫や、養護教諭の先生との懇話会での率直な意見交換もあり、安心して学べる有意義な時間となりました。

《瑞中オープングラウンドDAY》瑞中グラウンド&体育館にて 2025.12.6
子どもたちが思いっきり体を動かせる場所・環境が減っていることから、瑞中のグラウンドと体育館を開放。サッカーと野球、バレーとバスケの時間を設定し、好きな競技に友達や親子で参加してもらいました。スポーツを通じて、多くの生徒が笑顔で楽しみ、参加者みんなが満足する企画となりました。

《SNSセミナー『レイの失踪』》瑞中 体育館にて 2025.12.6
私たちにあって身近なスマートフォンを使い、SNS上を舞台にした謎解きゲームを通して「闇バイト」の手口や対処法を学びました。日頃当たり前のように使っているスマートフォンやSNSについて、親子で改めて考える良い機会となりました。2月28日(土)に、第2弾を開催します！ぜひご参加ください。

今年度の役員さんの声をご紹介します！

やれたら良いなーと思ってたイベントが、皆さんの力で実現できたことに、とても嬉しく思いました。
楽しかったです！

私は仕事の都合がつかず参加出来ないことが多かったが、それでも他役員の方との意見交換や企画運営の中で多くの事を学び良い経験になりました。

役員会は年に6回程度、LINEなども活用しました。今年度は盛りだくさんのイベントとなりましたが、来年度も楽しく活動をしていきたいと思っています。

運営方法の改善		主体的な活動参加の促進		PTA活動の周知
運営の適正化	デジタルツールの活用	組織の見直し・活性化	学校・地域・関係者との連携	広報活動
		●		

事例のポイント

- ・ コロナ禍での活動停滞を契機として、会員がPTA活動に参加しやすくなるよう、ボランティア制度を導入。
- ・ ボランティアには、**一年継続して活動するワニヤーボランティアと、行事ごとに単発で募集を行うワンデーボランティア**の2つがある。特に、ワンデーボランティアを導入したことで、**保護者が気軽にPTA活動に参加**できるようになっている。
- ・ **ビジネスチャットアプリを活用**し、会員との情報伝達やボランティア募集の利便性を高めている。
- ・ **保護者自身が学ぶための講座など主体的に様々なイベントが企画され、保護者同士のコミュニケーションも活性化**するなど、活動が充実している。

学校情報

学校名	栃木県立矢板東高等学校
所在地	栃木県矢板市
生徒数	656名（令和8年3月1日時点）
学校の特徴	昭和23年に当時の矢板高等学校に普通、家庭、農業課程をおくと同時に、定時制課程が併置されたことに始まり、昭和47年に矢板東高等学校として分離独立し、平成24年度からは附属中学校を併設。 全日制、定時制、附属中の生徒が同じ校舎で学び、地域の中核校として有為な人材を輩出している。

出所：栃木県立矢板東高等学校・同附属中学校提供情報を基に作成

組織の見直し・活性化の取組

実施に至った背景・経緯	・ コロナ禍で様々な行事が実施できなくなる中で、PTA活動も停滞していたことから、令和3年度に当時のPTA会長が再びPTAの活動を活性化させることを目指し、ボランティア制度を導入した。 ・ 同時に、ビジネスチャットアプリ上での情報発信など、利便性を高める取り組みも進めることとした。
取組のポイント	【ボランティア制度の導入】 ・ 多くの保護者に参加してもらうために、令和3年度からボランティア制を導入している。一年継続して活動するワンイヤーボランティアと、行事ごとに単発で活動に参加するワンデーボランティアの2つがある。 ・ 通年で活動する委員会は、ワンイヤーボランティアにより運営され、情報部（HPへの写真掲載やビジネスチャットアプリ上での情報共有等を実施）、企画部（イベントを企画・開催）、学年部（学年の集まりの司会等を担当）の3つで構成される。 ・ 中高一貫校であるため、例えば中学ではワンデーボランティアとして参加する等、保護者は最長6年間で希望に応じて関わることができる。 ・ ボランティアへの登録人数は、令和3年度は100名ほどであったが、令和7年度には300名以上に増えている。 【ビジネスチャットアプリの活用による情報発信の利便性向上】 ・ 令和3年度よりビジネスチャットアプリを活用し、会員への情報伝達を実施。上記ボランティア募集もアプリ上で行っている。 【自主企画活動の実施】 ・ やりたい企画がある保護者が中心となり、様々な講座やイベントを開催している。例えば、栄養・昼食に関する講座、保護者としての在り方を考える講座等も実施している。 ・ 学校とも連携しながらイベント等を実施しているが、例えば、土日の企画は学校外の場所を利用するなど教員の負担が増えないよう配慮している。 ワンイヤーボランティア 通年で様々な活動に参加するボランティアメンバーの呼称 ワンデーボランティア 行事ごとに参加を上手げするボランティアメンバーの呼称   出所：栃木県立矢板東高等学校・同附属中学校HP （PTA - 栃木県立矢板東高等学校・同附属中学校）
主な成果や今後の課題	・ ワンデーボランティアを導入したことで、新入生の保護者も気軽にPTA活動に参加できるようになり、PTA活動の入り口として機能している。 ・ コロナ禍で縮小していたPTA活動が、保護者の主体性によって徐々に増えてきており、これまでよりもPTA活動が活性化している。

4.「令和の時代」における運営優良事例のポイント

「令和の時代」における運営優良事例のポイント

ポイント1

運営方法の改善

運営の適正化

- 例えば、入会の意思確認や個人情報取扱等、**適切な運営を行うことが大切**である。
- 適切な運営の実現のためには、**単位PTA運営に関するガイドライン等の活用も有効**だと考えられる。

各種運営に関連するデジタルツールの活用

- 連絡、出欠確認、集金などの各種業務にデジタルツールを活用し、**運営の透明性と効率化を両立**していく。
- 毎年定常的に発生する業務での**年度報告や引き継ぎなどの業務負荷を軽減**することもできる。

ポイント2

主体的な活動参加の促進

時代に合わせた組織の見直しと活動の活性化

- **役職の廃止や委員会の見直しといった組織の見直し（スリム化）**を行うだけでなく、サポーター制度やボランティア制度の導入を行うことで、**活動の活性化**を行っていくことが考えられる。
- **会員が自主企画を提案し、実行することができる風土や仕組み作り**も活性化につながると考えられる。

地域や学校、関係者と協業した運営

- **地域の団体や学校関係者とも役割分担**しながら、保護者だけでは実施が難しい活動を行っていく、あるいは保護者自身が関心のあるテーマに取り組んでいくことも重要である。
- PTA活動を通じて、地域や学校関係者から協力を得るだけでなく、**PTAが地域や学校関係者に貢献するという双方向で子どものための活動を実現**している単位PTAもある。

ポイント3

PTA活動の周知

会員や関係者へのPTA活動の広報活動

- PTA活動に楽しさを感じ主体的参加してもらうことができるよう、**会員への情報発信が重要**となる。
- 行政や地域の関係団体などに対しても情報発信をしたり、メディアからの取材を受けたりすることで、**単位PTAの活動を広く認知**してもらえるように工夫している事例もあった。